

9・15 「戦後80年のつどい」

日中戦争から考える講演と劇

戦後80年の節目の年、この間、日本がNOWARで過ごせたのは日本国憲法の存在、日中友好協会や平和、民主勢力による反戦平和の運動があったからにはかなりません。しかし昨今、安保体制下で軍備拡大を主張する陣営は、ロシアによるウクライナ侵略にかこつけ、『台湾有事』の危険性を誇大宣伝し、中国からの侵略に備える必要を主張し始めています。

講演は「戦争の終わらせ方」の著作がある、原田敬一佛教大学名誉教授。劇は吹田を拠点に活動する劇団EN(えん)による二人芝居「りゅうりえんれんの物語」です。平和を考えるつどいにぜひお越しください。

日時 2025年 9月 15日 (月・祝)

13:30～16:00 開場13:00

会場 国労大阪会館 大会議室
(JR天満駅下車) (下記地図参照)

(第1部)

劇団EN「りゅうりえんれんの物語」

日中戦争末期、中国から石狩の炭坑へ強制連行され、昭和20年7月に脱走。14年間北海道の山野を生き抜いた「りゅうりえんれんの物語。」

作 茨木のりこ 演出 宮村信吾

出演 南澤あつ子 宮村信吾

音響オペレーター 青木和男

(第2部)

(仮)「日中戦争と中日戦争」から考える

講演 原田敬一氏 (佛教大学名誉教授)

講師からひとこと

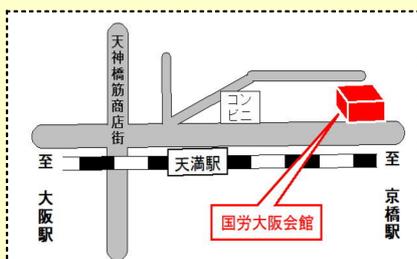


「日中戦争といえば、日本人は1937年からの戦争と考える。中日戦争という中国の名称では、中国人は、どちらの? 原田敬一氏と考える。第一次中日戦争と第二次中日戦争という。日清戦争が第一次で、その二番手が日中戦争という。50年間の戦争と考える中国と、8年間の戦争と考える日本。その溝は深いが、その認識に日本は気づいていない。第一次中日戦争の敗北から立ち上がり近代化を成し遂げ第二次中日戦争に勝った現代中国という中国の歴史認識。ここから中国共産党正当化の道が作られた。そのことの当否は中国の問題であって私たちの問題ではない。問題は私たちの歴史認識。」

8年間の日中戦争とは別に英米と戦い原爆に負けた日本。一級の軍事力を持ちながら原爆という超兵器に負けた日本。戦後は科学立国で高度経済成長を成し遂げ再び大国の道歩んだ日本。」
「この日本の認識は間違っているし、この認識が、アジア蔑視を残存させ、それが在特会などの排外主義へと成長させた。参政党の排外主義が、原爆肯定や日中戦争聖戦論まで述べているように、戦後日本の歴史認識の最大の問題は、中国や朝鮮など東アジアへの蔑視感が基礎となっていること。みなさんと一緒に考えましょう」



資料代 1,000円



JR天満駅下車、京橋方面へ180m

日中友好新聞付第2642号

劇団EN

